

令和6年度 学校関係者評価

1 学校関係者評議委員

- ・ 篠原 茂 氏（学校運営協議会会長）
- ・ 井川 昭二 氏（学校運営協議会副会長）
- ・ 真鍋 智明 氏（学校運営協議会委員）
- ・ 秦 典生 氏（学校運営協議会委員）
- ・ 石川 武博 氏（学校運営協議会委員）
- ・ 原 寿也 氏（学校運営協議会委員）
- ・ 梶本 香織 氏（学校運営協議会委員）
- ・ 山中 俊子 氏（学校運営協議会委員）
- ・ 太田 初 氏（学校運営協議会委員）
- ・ 小山 博規 氏（学校運営協議会委員）
- ・ 山内 光男 氏（学校運営協議会委員）
- ・ 柴田 雅昭 氏（学校運営協議会委員）
- ・ 星川 智和 氏（学校運営協議会委員）
- ・ 古川 拓哉 氏（学校運営協議会委員）

2 学校関係者評価結果（令和6年12月23日実施）

(1) 学校からの報告

ア 成果

- 「学校は、地域とともにある学校づくりを進められている。」についてのポイントが高い。地域の強力なバックアップのおかげで、円滑に学校行事が進められていることを、教職員が身をもって感じていると思われる。
- 「生徒のあいさつは、よくできている。」についてのポイントが高い。地域の登校の見守りボランティアの方々が、小学校の頃から継続して登校時の声掛けをしてくださっているのおかげで、挨拶が根付いていると考えられる。
- 「生徒は、社会のルールや学校の決まりが守れている。」についてのポイントが高い。必要に応じてルール改正があり、生徒にルールを守る意識が高まっているものと考えられる。
- 「生徒は思いやりの心を持ち、友人を大切にすることができている。」についてのポイントが高い。真面目で、素朴で、素直な生徒が多い。小学校から、地域で見守られて、地域で育てられた子どもたちだからこそ、周りを大切にできる心が育っているものだと考えられる。

イ 課題

- 「生徒の学力は向上している。」についてのポイントが低い。学力の二極化が激しく、階層の学習意欲がとても低い。全項目の中でも最重要課題であり、ドリル学習を取り入れるなどの手立てが必要だと考えている。
- 「生徒は、地域の一員としてESDやボランティア等に進んで参加している。」に

ついて教職員にと比較して、生徒・保護者のポイントが低い。大好き泉川の日などのボランティア活動に参加している生徒は多いが、それをボランティア活動として捉えていなかったり、全体的な意識が高いため自己評価が低くなってしまったりすることが生徒・保護者のポイントが低い要因だと考えられる。生徒が行っている活動の位置付けを確認するため、さらなるボランティア通帳の活用が必要であると考えている。

- 「生徒が計画的に家庭学習に取り組める工夫をしている。」について、保護者の全項目の中で最もポイントが低い。生徒の家庭での学習に関与していない家庭があったり、家庭で学習している姿を見ていない場合があったりするものだと考える。課題の出し方や保護者への周知方法を工夫したり、既存のテスト計画表を活用したりすることが必要であると考ええる。

(2) 意見・感想

- 運動部や文化部、駅伝活動など部活動が大変盛んで、活躍していた。
- 専門委員会の活動が、学校をよくするために取り組んでいた。
- 学校だよりに学校ホームページのQRコードがあるため、とても便利であった。
- 「大好き泉川の日」に参加している生徒の人数を見ると、泉川校区の生徒の地域愛が伝わってくる。生徒はもっと自信を持って良いと感じる。
- 「学校は、地域とともにある学校づくりを進められている。」の教職員と保護者のポイントの差が大きく、学校と保護者の思いが乖離しているのではないかと感じる。また、保護者のコミュニティ・スクールへの理解が十分でないとも感じる。
- 保護者の3.5ポイント以上がないことに驚き、残念であった。学習面への評価が厳しいようである。また、教職員や生徒がいろいろな行事等を行っていることを知らない家庭もあるのではないかと思う。ホームページでは活動を紹介しているが、掲載したことのアナウンスがあれば保護者の評価も向上するのではないか。
- 「学校と地域が協働して行っている教育活動は、子ども・学校・地域にとって有益である。」の生徒のポイントが低いのは、生徒に対しての教宣活動が不足していると思われる。
- 学校運営協議会のメンバーが生徒たちと直接関わる機会が少ないため、保護者参観日のような機会を設けてみてはどうか。
- 「大好き泉川の日」への参加を、部活動単位にするなど、生徒会主体でアナウンスしてはどうか。